

C—45 被服構成の基礎研究（第Ⅻ報）
—体幹部形態の考察—

京都女大家政 ○土井サチヨ
山名 信子
勝谷 弥生
高橋 純
田中 絹江
布施 知子

1. 私達は衣服寸法を設定する基準を見出すために数量的な考察を試みてきたが、被服構成に立脚してみると、生体の形態的な検索が必要であることが痛感される。そのため生体の横切断ならびに縦切断の形を採集することを試みた。従来シルエットによる考察および計測値をもとにして推測された形態の報告は数例あるが、生体そのままの形態を採集したものは数少ないようである。したがって生体の形態そのままを採集して、数量的なものとの関連を追求し、作図への理論を探ることを目的としたものである。

2. 被験者は19歳の女子学生83名であり、採集時期は1967年10月である。器具はスライディングゲージを使用し、胸部、胴部、腰部の横切断の形態を得るために、同部位を前面、後面より採集してこれを組み合わせた。さ

らに縦切断の形態をみるために，正中線，乳頭位における，前面，後面を採集して組み合わせた。肩甲線の位置は後面のみとした。一方シルエットによる体型分類の方法が報告されているので，これと比較するため写真による計測を併せ試みて検討した。

3. 横矢示数と形態には深い関係があると考察されたので，横矢示数を基に集約した。胸部、胴部、腰部を部位別に集約しても，それぞれの部位は同一形態でなく組み合わせは異なる。そのため縦切断との関連を検討し，写真計測との比較を試みた結果，形態的な特徴が把握し得られたと考えられる。